

# 【数学科編】

## 1 家庭学習でできること (予習の仕方)

### ① 予習ノートの作り方

- 教科書の単元名や見出し文を写しましょう。
- 教科書の言葉の説明や内容を書き写しましょう。特に、太字の語句は赤字で写す。
- 言葉の確認ができたなら、例題に挑戦する。問題のポイントとなる語句には下線を引きチェックする。
- 例題になれたら、「たしかめ」「問」で問題練習をします。解答を見て、必ず赤ペンで丸付けをする。
- 1日教科書2ページ程度のペースで進めましょう。焦らず「正しく解く」ということがもっとも重要です。
- 右の図を参考に進めてみてください。

### ② 問題集の取り組み方

- 教科書の内容が理解できたら、問題集に挑戦しよう。
- 問題集のページの右上に教科書のページ数が書いてあります。教科書の進度に合わせて進めましょう。
- 予習では、(A)問題だけでもOKです。授業後に(B)で復習する。
- 休校中に教科書とワークを予習しておくことで授業再開後が楽です。

### ノートの作成例

符号のついた数 ← 単元名や内容を書いておくと後で見やすいよ。

「-のついた数は、どんなことを表しているか」考えよう

0℃を基準として、それより低い温度は、-を使って表す。

0℃より3度低い温度を  $-3℃$  とし「マイナス3℃」と読む

十を正の符号、一を負の符号という ← 教科書の言葉の意味や説明を写そう

例1 海面の高さを基準の0mとし、高さが海面より高いことを正の数、低いことを負の数で表す。

富士山山頂は標高3776mなので海面より3776m高い  
だから  $+3776m$

P10 問1 (1)  $+5.5℃$  (2)  $-8℃$

P11 たしかめ 海面より170m低い ← 間違えたら消さないで書き直す

《計算の練習の場合》

問1 (1)  $(-5)+(-4)$

$= -(5+4)$  ← 途中の式を書くようにする。式は=をそろえて縦に進める。

$= -9$

## 2 ポイント

- 教科書の問題でもワークでも、計算練習では、途中式をしっかりと書くことが大切です。途中式を書くことで、ミスを少なくできるようになるだけでなく、自分も考え方を他の人に伝えることができるようになります。
- 問題を解いたら、必ず答え合わせをしましょう。赤ペンで○か✓だけ付けるようにします。
- 間違えた問題は、すぐ答を写すのではなく、もう一度解きましょう。一番大切なのがここです。間違えた問題や分からなかった問題は、もう一度教科書を読んで解き直してください。書き直しをしたら青で丸付けをすると後で、苦手なところだけ復習することができます。それでもわからなかったら、おうちの人に聞いたり調べたりしてみよう。

## 3 休校中だからこそできること

- 休校中の時間に余裕のあるこの時期だからこそ、身近にある数学に目を向ける良いチャンスです。教科書(1年はP248~P265、2年はP198~P213、3年はP238~P250)の巻末に「社会とつながる」「数学をひろげる」「数学パズル」「数学の歴史」などの読み物資料があります。気になるものを見つけ読んでみてください。全部が理解できなくても、何か発見があったり、数学に興味を持ったりできると思います。チャレンジしてみてください。